【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成17年8月11日(2005.8.11)

【公開番号】特開2000-95880(P2000-95880A)
【公開日】平成12年4月4日(2000.4.4)
【出願番号】特願平10-268230
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０８Ｊ　5/18
　Ｃ０８Ｌ　67/02
【ＦＩ】
　Ｃ０８Ｊ　5/18　ＣＦＤ
　Ｃ０８Ｌ　67/02

【手続補正書】
【提出日】平成17年1月21日(2005.1.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
［相溶化度］
シートを構成するポリエステルの相溶化度（相溶化度＝$P_{NT}+P_{TN}$）は次式で定義される。
相溶化度＝$P_{NT}+P_{TN}$
P_{NT}；ＱＡ単位に隣接するＴＡ単位の存在確率
$P_{NT}=(I_{TEN}/2)/(I_{NEN}+(I_{TEN}/2))$
P_{TN}；ＴＡ単位に隣接するＱＡ単位の存在確率
$P_{TN}=(I_{TEN}/2)/(I_{TET}+(I_{TEN}/2))$
I_{TET}；ＴＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{NEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＱＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{TEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
ここで、ＱＡはナフタレンジカルボン酸単位、ＴＡはテレフタル酸単位、ＥＧはエチレングリコール単位である。
シートを構成するポリエステルの相溶化度は０．１５～０．５０、好ましくは０．２～０．４０である。相溶化度が０．１５未満であるとポリエチレンナフタレンジカルボキシレート（い）とポリエチレンテレフタレート（ろ）の相溶化が不十分であり、透明性が損なわれ、０．５０を超えると非晶性が強くなり機械強度が低下する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
共重合できるジカルボン酸成分として例えば、２，７－、１，５－、１，７－その他のナフタレンジカルボン酸の異性体；イソフタル酸、ジフェニルジカルボン酸、ジフェノキシエタンジカルボン酸、ジフェニルエーテルジカルボン酸、ジフェニルスルホンジカルボン酸等の如き芳香族ジカルボン酸；ヘキサヒドロテレフタル酸、ヘキサヒドロイソフタル酸等の如き脂環族ジカルボン酸；アジピン酸、セバチン酸、アゼライン酸等の如き脂肪族ジ

カルボン酸を例示することができる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
共重合できるグリコール成分として例えば、トリメチレングリコール、テトラメチレングリコール、ヘキサメチレングリコール、デカメチレングリコール、ネオペンチルグリコール、ジエチレングリコール、１,１－シクロヘキサンジメタノール、１,４－シクロヘキサンジメタノール、２,２－ビス（４’－β－ヒドロキシフェニル）プロパン、ビス（４’－β－ヒドロキシエトキシフェニル）スルホン酸を例示することができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
共重合できるジカルボン酸成分として例えば、２,６－ナフタレンジカルボン酸、２,７－、１,５－、１,７－その他のナフタレンジカルボン酸の異性体；フタル酸、イソフタル酸、ジフェニルジカルボン酸、ジフェノキシエタンジカルボン酸、ジフェニルエーテルジカルボン酸、ジフェニルスルホンジカルボン酸等の如き芳香族ジカルボン酸；ヘキサヒドロテレフタル酸、ヘキサヒドロイソフタル酸等の如き脂環族ジカルボン酸；アジピン酸、セバチン酸、アゼライン酸等の如き脂肪族ジカルボン酸を例示することができる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
（６）相溶化度：
６００ＭＨｚNMRにて各水素の積分強度を測定し、次式にて計算した。
相溶化度＝$P_{NT}+P_{TN}$
P_{NT}；ＱＡ単位に隣接するＴＡ単位の存在確率
$P_{NT}=(I_{TEN}/2)/(I_{NEN}+(I_{TEN}/2))$
P_{TN}；ＴＡ単位に隣接するＱＡ単位の存在確率
$P_{TN}=(I_{TEN}/2)/(I_{TET}+(I_{TEN}/2))$
I_{TET}；ＴＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{NEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＱＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{TEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
ここで、ＱＡはナフタレンジカルボン酸単位、ＴＡはテレフタル酸単位、ＥＧはエチレングリコール単位を示す。